大正四年四月一日發行大正
明治卅七年五月七日第三種
日發行）

女子青年界

第十二巻第四號

要目

女子青年會第十二巻第四號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XII　　April, 1915　　Number 4.

女子青年界　第十二巻第四號（大正四年四月一日發行）

會說

原動力

河井道子

一夜、訪問をうけし年若き一友人より信仰上の良教訓を得ました。此友は普通の立場から申せば、不足こそは唱へても、滿足や感謝が出來る境遇には居りませんのに、彼女の口から洩れる一言毎に、赤誠の歡喜と感恩とが充滿してゐました。第一、彼には母がなく、老父は財政上の失敗を重ね、親類は無教育、自身の五官は完全からず、才器は級中にて劣つて居るのでありますが、常に自分が祝福にのみ與かり如何にして神に對し人に對しての報恩が出來やうかと申します。畢竟彼には內的生命が雀躍して居りますから、何物でも此活動を差止める事が出來ないのであります。其故に同情厚きこと、義務に忠實なること、抱負の眞面目にして氣高きこと、祈の精神の盛んなること、轉羨望に堪えません、私は此友人が何處にゆくとも良き神の使者として有力者の數に加入さるゝを確信して居ります。

一般から申せば、可成く苦痛や困難なく、才能、容姿皆具備して居るのを希ふが、普通の人情でありませう。然るに基督を信仰しますと、世間では不幸、難義と視ることも、祝福に變じ、悲憂、失望、の中

より喜樂と希望とを發見する偉力が與へられます。是は決して諦めるとか、思ひ切るとか、宿命的に仕方がないからと云ふのとは雲泥の差であります。即ち力の及ぶ限り勉强しても營業が進まず、熱心に努力しても失敗する機に「あゝ詮らぬ、情ない、駄目」などゝ嘆息する代りに「ベストが足りなかつた、愚鈍な者であるから力の限りしてもよくゆかぬ、然し若し頭腦明晰で秀才だなどゝ持囃されたら、今でさへ高慢、不遜の傾向ある此身故、嘸かし驕傲怠惰の罪を多く犯した事であらう、此の罪より免かれしめんとして、己の薄弱を知り眞の神を依り賴むやうにせよとの御敎訓である」として益々奮勵いたしませう。或は又見榮えなき風姿の女が生れ甲斐なしと煩悶する如き場合にも、信仰ある婦人は「見苦しく生れしこそ幸福の元である。花羞かしき美人であつたら、人を騙し己を陷れ那落の底に沈む毒婦となつたかも知れぬ、此顏である故謙遜を學び、心の善美を求むるやうになつた事は有難い事である」と悅ぶに相違がありません。尤も精神の美しい人は決して醜くは見えません。詩篇に「彼等エホバを仰ぎ望みて光を被むれり彼等の顏は恥ぢ赤らむ事なし。」とありますが、本當に金言ではありませんか。彼のパウロが「憂るに似たれども常に喜び、貧きに似たれども多くの人を富まし、何も持たざるに似たれども凡ての物を有り」と申したのは、人生の頌榮であり又凱歌であります。

讀者中には今回卒業の榮を負い新たに赴任さるゝ方もありませう、又從前の難かしい位置を繼續さるる方もありませう、かゝる時にこれは自分には過ぎるとか責任が重すぎるとか告白する人は、强ち基督者のみに限りません、誰でも正直な人であれば斯く思ふのが當然であります。然しこの先が兩者の間に大差を生じます。一方は我はこの器にあらずとして其困難や責任を避くるか、さなくば精神一到何事か成らざらんとの勇氣で自力的に猛進するのであります。他の方は己れの貧弱、無能を十分に自覺はして

居りましても、己が背後には全智全能にして慈愛に富める父なる神があつて宜しきに教導し給ふが故に己を捨てゝ聖意のまに／＼働かん、加之「世の賤者藐視らるゝ者即ち無きが如き者を選び給へり」と云ふ神の恩寵に感激して進むのであります。

此處に又愉快なる一事があります。聖書中にある偉人が神より選抜され、大使命を受けた時は異口同音に己が無力を神に訴へ、眞に恐懼措く處なき正直な告白をして居ります。モーゼがエホバよりエジプトに行きパロ王より同胞を救ひ出せと命ぜられし時、彼れは「我が主よ、吾は言辭に敏き人にあらず、汝が僕に語りたまへるに及びても猶然り、我は口重く舌重き者なり」と答へ堅く辭退して其任を避けやうといたしました。然るに神は「行けよ我汝に言ふべき事を敎へん」と勇氣付けられ、終にモーセをして百難を排してイスラエル人を救ひ出す大歴史を作らせになりました。

次にギデオンに神がイスラエル人をミデアン人の手より救はせやうとなさいますと、彼は恐れ戰慄き、「あゝ主よ、吾は何をもてかイスラエルを救ふべき、視よ我が家はマナセの內の最も弱きものわれは又父の家の最も卑賤き者なりと答へて辭退しますと、神は又我必ず汝と共にあらんと約束されてギデオンを導かれ、舊約中の名將とし王國の基礎をつくらせになりました。

彼のソロモンは絕世の賢者で世界の極より彼が智惠をきかんとて人々が馳せ來りしと云ふ事があります。然るに彼れは父の位を繼ぎ一國の王として其の重任が双肩に懸つた時に、如何にも自身の未熟なるを悟り、「吾が神エホバ汝は僕をして吾が父ダビテに代りて王とならしめたまへり、然るに吾は少さき子にして出入する事をしらず、且僕は此民の數多くして數ふる事も書す事も能はざるものなり」と懺悔の祈禱を捧げて居ります、其の答として「神はわれ汝に賢明く敏き心を與ふべし」と申されて奬勵された記事が列王記に御座います。

豫言者中の大豫言者なる以賽亞は神の榮光を見、自身の汚れを被覆ふによしなく「禍ひなるかな我ほろびなん、我はけがれたる唇の民のなかにすみて穢れたる唇の者なり」と懺悔の叫びを發しますと、天の使は熱灰を彼の唇に觸れて「汝の惡はのぞかれ、汝の罪はきよめられたり」と告げて遂に豫言者をして「吾此處にあり吾をつかはし給へ」と進んで神の使命を受ける樣な勇者と致しました。これと同じ經驗をエレミヤもしたのであります。彼は一日神の選びを受けし時怖ぢ惑ひて「あゝ主エホバよ視よ吾は幼少により語ることを知らず」と申しますと「汝われは幼少といふ勿れすべて我汝を遣すところにゆき我汝に命ずる凡ての事を語るべし、彼等の面を畏るる勿れそは我汝と偕にありて汝を救ふべければなり」との神の言葉に感激してエレミヤは殉難者の群に入るまでに非凡の大活動を全國に致した次第で御座います。

以上の引例にて、昔の人々も今日のわれ／＼も人情に於ては違いがないと云ふ點を窺ふ事が出來ます、偉人でさへ無經驗の時代は吾等と同じ弱點、同じ恐怖卑怯の念があつたので御座います。然るに神は一人々々を導き奬勵し、教育されて人類の大祝福をきたす使ひ人と訓練なさいました。私共は固より彼等の如き大使命を帶びる器とは云へませんが神の保護、神の指導は昔も今も變りがありません、吾等を遣し給ふ處に神も共に行かれ、吾等と共に働き給ふ事を知りますならば百人の味方よりも尙大なる援助を得た次第ですから己が責任を果し得るのは瞭然であります。

曾て一外人が日本の常套語である「致方がない」に飽々して「致方があります」と眞面目に忠告した笑話がありますが、我々は兎角「致方がない」を口癖に申すが、神に依賴むものは斯の如き失意的辭句を口にせないで「神は我等が避所また力なり、なやめるときの最ちかき助なり、されぱたとひ地はかはり山は海の中央に移るとも我等は恐れじ」と歡呼して進み行くべきであります。何卒諸姉が散在さるゝ各所に於て愈々勝利の御生涯を送られ靈的生命の尙々圓滿にしかも充滿された御發達を遂げらるゝことを切望いたします。

基督者の道行

植村正久

人を偏視ず各人の行に由りて鞫く者を爾曹もし父と呼ば世に寄れる日を懼れて過すべし。

（彼得前書第一章十七節）

愛する者よ我爾曹に勸む爾曹は賓旅また寄寓者なれば靈魂に逆ひて戰ふ肉の慾を去るべし。

（彼得前書第二章十一節）

吾々が旅立つと云ふ心、出掛けやうと云ふ決心の起るのは、神の惠深きお招きに依るのである。聖書を讀むと、度々旅行になぞらへてある、聖書の意から云ふと、旅行は家から離れて平和を得ない憐れむべき狀態にあると同じである。吾々の狀態は落ついて居る可き筈の家を離れて、零落し漂流して甚だ困窮した狀態である。併し斯の如く窮して來ると、元に歸らなければならぬと云ふ心が出る。その歸ると云ふ心は神の引き給ふが故である。昔から神秘者と云はれる人々は三つの言葉を使つて說明して居る。

第一、引きつける力　磁石が鐵を引く如く、神と吾々との間に引きつけられることがある。

第二、熱誠を以て神に仕へること　これにも二つの意味がある。即ち神に迄の旅行。神に於ける旅行である。吾々は限りなき命を神より賜つて居るが之を成長せしむるのに骨が折れる。以上二つが吾々の生涯である。

第三、高登　吾々が時々高所から見渡して元氣を引立て、希望を鼓吹される、益足を早めて怠らず萬難を排して決心の臍をかためると云ふ所。

基督者が段々進むに程度がある時々の出來事感想など色々ある。旅はどうしても今迄の狀態とは樣子

が違ふ、旅人は確に昨日迄とは違つた生活をするのである。家に居ると奢つて居つた人も旅にあつてはそうは行かぬ、大きな室に居つた人も小さな室に居らねばならぬ、甚だしきは旅の恥はかきずてなどと云ふ。又旅には難儀がある俗に旅は憂きものゝ如く隨分困難がある、又段々通過する地方の模様に新しきこともある。確に信仰生活にもこれがある。段々行くうちに日が暮れて夜になる、或は野路の村雨におそはれ、或は首尾よく宿についても物憂き事がある、夜になつては色々の事を思ひ起すのである。基督者にもこの夜の感想があるに違ひない。

　吾人が信仰の旅、即ち會友となり、或は洗禮を受けるとうれしさの餘り何でもする、餘りやり過ぎる事もある。學生ならば勉強を捨てゝ、うれしさの餘りに無暗にかけ出すなどと云ふ事もあるが、是等の經驗を種々研究して心に思案がつくのである。ジコヨン、バンヤンの天路歴程等に就いて、よく／＼しらべて見ると、非常に益があるに違ひないと思ふ。それに就いて彼得前書第一章十七節「人を偏視ず云々」を考へねばならぬ、御同様今は旅行中、旅の空である。即ち全生涯、どうしても信仰生活の理想は全部に渡つて間斷なく常に心掛く可きである。

「懼れて過すべし。」どうも吾々餘り懼れると云ふことがない、うつかりして餘り呑氣である。どうしても懼れがなくては困る。併しヨハネの書簡を讀んで見ると、全き愛は懼れを去ると書いてある。矛盾して居る様だが、そうではない。基督者の生活は捕はれて窮屈だと云ふ人があるから、それで私は今日は「懼れ」の譯をお話したい。

「命を重んずる者は岩上に立つ」と云ふ言葉がある。もし吾々が貨物を持つて旅行するときは油斷しない。併し天職使命を考へない連中には懼れはないが、寶を懷中して居ると懼れがある。吾々神の御心に叛く事は實に恐ろしい。又これを懼れるのである。もしこれを恐れぬならば非常なことである、どうしても一生懸命に守る可きであると考へるならば、神

の御心を痛める様な場合を氣遣はしく思ふこの經驗のない人は困つたものである。少なくも主の祈から一條をぬかして祈らねばならぬ。どうしても基督者の生活は懐中に大切な物があるから注意を要するのである。殊に吾々は神の御心を喜んで居るから御心を痛める事は恐ろしい。そこで信仰は誇り傲ぶり油斷とは反對であるが、神を懼れることは反對でない。ポーロは「畏懼戰慄て己が救を全うせよ」と敎へた。これが基督敎である。以賽亞書第九章十二節に「この民のすべて叛逆ととなふるところの者をなんぢら叛逆ととなふるなかれ慴くなかれ、なんぢらはたゞ萬軍のエホバを聖としてこれを畏みこれを恐るべし」とある基督信者は人を恐れず世を恐れない。これは神を懼れるからである。即ち神との關係から離れぬ樣におそれる。

吾々は山の高さを知つて、天の高さを忘れる愚かな者である。そこで基督を懼れる者は神と關係の離れることを懼れるこの心掛があるから、獨立自由である。社會にたつても勇者の如く歩み得るのだ、決して神を懼れると云ふのは窮屈でも捕はれるのでもない。「義者は獅子のごとくに勇まし」（箴言第廿八章一節）とある。

それで基督者の旅立ちの仕度については色々あるが神に遠ざかる事を恐れることが第一だ。少なくとも世に宿れる日、旅の空にあるうちは懼れて過さなければならぬ。之が眞の獨立自由である。御同樣威張つて居る人が存外人を恐れ世を恐れて臆病であるこのさばく所の父なる神を信ずるのが信仰生活で、懼れて過すべしである吾々は實に健全なる懼れをいだきたいものである。神を懼れるのは即ち信仰生活の初めである。

（文責在記者）

最高の友

笹尾粂太郎

歴史上人に勝れたといふ仕事をした偉人の傳を讀んで見ます度に感ずることは偉人のなした大事業のかげには必ずよき友があつて之を助けて居つたことであります。委しき例を擧げて居る時間がありませんから略しますが人類の中でめぼしいことをした人はきつと終世の友のあつたといふことは歴史が證明して居る明な事であります。眞の友といふことは實に尊き大切な事でありますが然らば如何な人が眞の友親しき友であるかといふに逢へば挨拶し親しげに語り一寸と見て親密らしいのが眞の友ではありません。眞の友とは親しき友である。親しき友とは飲食談笑を共にして無益に時間を費すのがさうではありません。

私が獨逸に勉强して居た時は極めて貧乏で小さな部屋に勉强して居りました。ある時一人の留學生が私に親しく交際しやうといふそして自分と親しくすれば文部の留學生になれるやうに頼んでやるからと云ふので此上親しくするのは如何にするのであるかと聞くとそれは親達や兄弟政府の人々に知られてはならぬ所に一共に來るのだと云ひました。これが眞の友の親しみでせうか、眞の親しみをなすのには親や兄弟や政府の人に知れてはならぬ所にゆき墮落の生活をなせといふのである。人に知られぬことをなすのが親しき友の間柄といふのであらふか。私はこの時斷然サタンよ我が後に退けの主の御言葉を思ひ出しました。そして斷りました。若しこの時拒絶しなかつたならば私も今頃は官位の一つ位は持つて居たかも知れませんが私は今無官の大夫であることを

喜んで居ります。「身體をまはる赤い青い血脈は一國を縫ふ黒い鑛脈より尊い一國の富は黒い鑛脈でなくて身體に通ふ赤い青い血脈にある」と云つたラスキンの言葉を思ひ神によつてこれを淸く保たうと常々決心して居た私かゝる不義の交をすることは出來ません。母にもきかせ得ぬ秘密の交は決して親しい交と云ふことは出來ぬ母はきかずとも神は知りたまふ。母の前神の前にて話し得交り得るものこれが眞の友であります。

又眞の友とは心を打明けて語ることの出來るものでなくてはなりません、悲しき時樂しき時共に打明けて語り合ふことの出來る人が眞の友であります。悲しき時涙を以てなぐさめてくれる友は多くあるが喜の時成功の時心から喜び祝してくれる人は少ないこれをしてくれる人が即ち眞の友であります。

又眞の友は終世忘れぬ友である。我國には美しき言葉があつて同窓の友といふことを云ひます同じ窓の下に机をならべて勉强するといふまことによき友であるがしかしなほ一歩すゝめて同志の友と云ひ度い。同窓の友であるばかりでなく同志の友即ち同じ志を以てすゝむ人であるかゝる友は終生忘れられない友でありませう。誰でも云ふことであるが「こんなに親しく交りてどうして生涯忘れるなど〻云ふことがありませう」としかし社會の地位がはなれてくると玄關拂のやうな不人情のことをする人もあるといふ。これは眞の友ではありません、眞の友は終生忘れない友であります、皆樣の中にても或る人は幸にして位置高き人となりある人は不幸にして山の中に一生を送る人もあるでせうしかし眞の友の交を結べるものは二十年三十年をすぎて如何に地位が變つても同じ地位の奥樣方と衣服や髪飾りの話をするよりも昔共に學んだ友山の中に引きこもつてる人と話すためにわざと悪い衣服を着てその友を尋ねてひたすらに友の上を思ふでありませうこれ眞の友であります。

私が米國の大學で學んで居た時眞に愛した數名の

親しき友があります私の今日あるのは偏に彼等の御蔭と感謝して居る次第です。一體私は頑固な人間で友といふものがありません部屋の中で勉強ばかりした極めて利己主義な男でした、あちらでも始めは少しも人と話さずたゞ勉强ばかりして居りましたが一人の友は私のことを心配して貴君は米國に本を讀みに來たのではあるまい本をよむばかりなら日本に居た方がよかつたではないか少し出でゝ社會にふれたらよからう美しい家庭立派な人に紹介しやうと或る時友は私をある會につれて行きましたそして立派な人々に紹介して先方はいろ〱と話しかけたが私はそれを受けない故皆去つてしまつて私も部屋のすみに一人立つて居たがつまらないので先に歸つたすると先の友が來て面白かつたかと云つたので私は面白くなかつたと答へたすると友が「私も面白くなかつた君をわざ〱紹介するために多くの人に集つてもらつたのに誰とも話もせず目もあり耳もあり口もあつても話しもせず聞きもせぬ日本の偶像といふものを今日始めて見た」と云つた、この誠心より出でし友の言葉に感じ手をとりて謝しよき友の與へらるゝことを願つたので友も喜び多くの人に紹介してくれた、それで私は友の御蔭で今は偶像でなくなりました、かくて誠心より交つてくれる友が出來、兄弟より親しい友が出來ました後この地を去らふとした時友は二百哩も遠い處から集つて來て送つてくれたばかりでなく貴君が獨逸に行つてまだ友の出來ぬ中に病氣にでもなつた時は米國に親しい友のあることを忘れずに電報でもうつてくれ」と親切に云つて送つてくれました。後八年餘り思はないのではないが遂便りを怠つて居ました先年ワシントン府に開かれた青年會の大會に私が日本の代表者として行くことになり準備を終へていよ〱出發すると非常に米國の友のことが思はれて仕方がありません。やがてシヤトルにつき鐵道でワシントンにむかふ途中ふとワシントンの近くのワルテノーに友の居ることを思つてそこに下車し旅服のまゝで友の家を尋ねた。友は

その時すでに立派な地位になつて大きな家に住んで居たのでその家は直ちに知れて門口で鈴をならしたすると一人の黒人が出て來て主人の留守なことをつげて二三問答をして居ると奥から白人の婦人が出て來て「貴君は日本の笹尾様ではありませんか」といふおどろいてその由を云ふと導き入れられて立派な室に通された。その婦人が云ふには「十日ばかり前より主人夫婦の話は貴君の事ばかりで日本からK笹尾といふ人が來るさうだきつと友の笹尾君にちがひないと毎日々々待つて居られました」といふ。そのうちに友人夫婦が歸つて來て非常に喜んでむかへられた今更に日頃の不沙汰がはづかしくてわびると友は「御互に非常に忙しい身であるから互に手紙は書かなかつたけれどあの友情は手紙を書かぬために忘れ去られやうかどうか母に聞いてくれ。一月の中ある日を定めて家庭禮拜の時大學時代の親友の名をあげてその人々のために神の守りを祈るのであるがその時君の名を呼ばなかつたことが唯一度でもあつたか母に聞いてくれ」と。

ワシントンへ行つてからも友は多くの手紙を持つてわざ〳〵來てこれは大學時代の友から笹尾君が來たさうだ折を見て家へ寄るやうにしてくれと云つてよこした手紙であると見せてくれました。學校に行きましたがやはり喜んでむかへくれました唯一人私を一番愛して下さつた先生が病のため欠勤して居られたので翌朝早く先生を尋ねて玄關で音なうと中から先生が「笹尾ではないか這入れ」と云はれた、どうして先生が私のことをわかつたのかと伺つて見ると聲で覺えて居たと云はれたのに實におどろきました。八年餘り御禮の手紙さへろくに書かなかつた一生徒の私の聲をなほ記憶して居て下さつたかと思ふと實に何とも云へぬ嬉しさの感に打たれました。こんな話は到る所にありました。

長い年月會はなくても眞の友は一生忘れぬものであります。心を打明けて語り得る友。位置變つても終生忘れない友は眞の友であります。

然し人間は缺點が多い眞の友。この友こそ何にても打明け得る友と思つても時に誤解せられ又誤解することがあるがキリスト者に對して我等の持てる友よりは一層美しき氣高き友がある。默示錄三章二十節に「視よ我戸の外に立ちて叩くもし我聲を聞きて戸を開く者あらば、我その人の所に就ん而して我その人と偕に其人は吾と偕に食せん」と、不沙汰しても祈禱を忘れても毎朝聖書より先に新聞手紙を手にとり食卓の話は社界の雜誌に流れてキリストの噂を怠つても我等を見すて給はずして我等の心の戸をたたき給ふは我等の最高の友エスキリストであります、音信を怠りても不人情きはまる態度にてエスに對しても忘れ給はずして常に戸を叩きたまふキリストを喜び迎へて入れ申すこれキリスト者の生涯であります。朋あり遠方より來る亦樂しからずや。キリストは常に我々の心の戸を叩き給ふのであります。親しき友と心を打明けて話すは心を淸めらるゝものであります。皆樣、最高の友エスを掃除の屆ける心の部屋にいつも導き入れ申すやうにし度いものであります。諸君は何時自分の心の戸を開いても主を御通し申すことの出來るやう準備せらるゝことを望みます。

友情は高き所に目をつけて高尙なる理想の下に結ばるゝものでなければなりません。最高の友エスを眞の友として主を中心として交る友は淸き親しきものであります。母の前に話の出來る友であります。心を打明けて語り得る友。終世忘れない友であります。どうか皆樣この事を一層深く考へらるゝことを希望する次第であります。

誤解の起る點

一米女史

左の一篇は米國人にして日本人に對し深厚なる同情を有し、常に日本婦人の向上發達のために努力

せる某女史が、頃日記者との對談の際に於ける要點を摘記したものであります。今や日米間にはむづかしい問題が横はつて居るやうに傳聞いたしますが、よく其の原因を探究して見ますと、强ち米國人だけを咎むべきではないやうに思はれる點もあるので御座います。極めて鎖細な事にも不用意で、自制的の精神に乏しく又自我的であつて宗教的修養のない事や、詮じ詰めると、お互に自省せねばならない點が少なくないのであります。誤解も疎隔も衝突も皆此等の間から胚胎し來るのであります。延て國際問題にまで及ぶのであります。いくら國際問題がどうのかうのと表面的に意張つて見ましても、最先に必要なことは國民としての精神的方面の改善と個人としての品性の發達を遂げなければ、問題は片附かないと思ひます。品格あり修養あるもの丶前に戸を閉てるものは天下何れの處にもあることはないのであります。記者は其の意味合を明にしたい所から本篇を揭げて讀者の一考を煩す次第であります。（記者）

私が米國へ歸へる時、同船の上等室に三人の日本婦人がありました。一人は丁度私と同町に住む方と聞き親しく談話などいたして徒然を慰めて居りました。一夕、或る老米婦人が私の室に音づれていかにも唯ならぬ樣子にて、是非同行して老人の船室に來よとの事で何事かと思ひ隨行すれば婦人は己が室の前に立ち止まり靜かにむかひ側の笑話をきけよとの事故、耳を澄ませば、三人の日本婦人の部屋にて確かに男女の笑ひ聲で傍若無人の高話しらしく思はれました。度々日本婦人の室に自分も訪問せし事あれば、平然を裝ひ「今晩は」といひながら戸を開らけば、內には三人の婦人は皆臥床にあり一人の支那の男學生と船員の一日本男子が腰を掛けて面白げに話の最中でありました、「まあどうしたのです」と聲をかけ支那人を戸の外によび出し、懇々彼の不注意、禮儀の蹂躙を責めました處が、其の男子は日本男子が是非一所に來いと誘ひくれ何の惡る氣もなしに遊

びに行きしなりと詫び今後決してかゝる振舞はなさじと約して其處を去りました。次に日本男子を呼び出し、私は少しの遠慮もなく、「一體あなたは船員であり乍ら又船上の禮儀作法も心得てあるべき人なるに何故婦人船客の室に用もなきに入り込み笑話などするのです、かゝる事あればこそ外國人に誤解され排日問題ももち上るわけです」と説諭せしにかれは大いに詫び今後注意せんと云ひ、急ぎ其處をさりました。今度は婦人の室に入り三人に向ひ「あなた方は西洋の禮儀を御存じかないでせうが西洋では婦人が決して男子を寢室に入れるなど申す事はいたしません、若しその樣な事があれば人より不道徳の者と見なされるのであります、尤も日本では普通の家に客室、居間、寢室などの區別がなく、どの部屋も客間にもなれば寢室にもなります、それで西洋の樣な嚴しい慣例はありません、ですから、貴女方は御存じなくて男子が此處にあそびにくる事を許可れし事でせうが、上陸なさつて後この樣な間違ひをなされば日本の婦人はます／＼見下げられ國辱を招くのでありますから御忠告申上げます」といひしに三人は非常に感謝し何も知らざりし故今後はよく氣をつけんとの言葉に私は安心して室に歸へりました、翌日婦人達も又支那留學生も、前夜の事を謝しなほ／＼御互ひに助け合はんと話しましたので私もまづ良き事をせしと喜んで居りました處が、其晩も又前夜と同じく婦人達の部屋に男子共が遊びに行きましたのであたりの心ある者は眉をひそめました、これには私も失望せざるを得ませんでした。上陸後其一行婦人の一人を訪問しました處が、其の家の垣は甚しく破れ、家は修繕を要し、庭の芝生は長らく手入せし樣子なく、花は枯れて（加州では四季共に僅かの手入にて美しき花がいくらでも咲きます）庭には紙屑が散在し如何にも見苦しい狀態でした、それで近所の者はかゝる不性な家のあるために自分たちの住居までが汚く見えると呟いて居りました、是は何から來ると云へば畢竟夫婦共稼ぎで早朝より家を出、所

謂月を踏んでかへるといふやうに、寢泊りのみに其の家が使はれて居りますから、手入をする暇がないのであります。餘り日本の勞働者が金儲けに氣をとられ、家を顧みる暇なく、子供を世話する事も出來ず、「旅の恥はかき捨て」と云ふ如き考へから其國の風俗習慣を無視するやうになるのが第一排日の聲を高からしむる原因かと思ひます、たとへば寫眞結婚にて日本より何も知らぬ婦人を呼びよせ、一家を經營せんとするに妻は西洋の家具、什器、物品の使用法さへ不馴にて人の笑ひを招く如き事が往々あります、例へば日本で如何に眞鍮の金盥が美しいとて、若し外國人がこれを食器に使用したとすれば、誰でも其の愚を笑ふのみか必ず其人を經視するで御座いませう、扨は皆其の使ひ樣がありますから、やはり其の國の習慣的使用をしなければ誤解を來たしますこれと同樣の事が間々日本婦人にあるので御座います。そこで加州の高慢な同情心薄き米國人共が日本の姉妹達を侮どる樣な事が度々で御座います、次に是等の家庭に子供が生れますと洋服の着せ方もよく知らずして特別西洋人の注意いたします下着などをよく着せないで、可笑しな風の服裝をさせたりして置きますので誤解をまねく事があります。

次に英語が出來ぬことは大變不便であり國に同化する事が出來ぬ第一の原因であります、言葉は意志を表はすもの其が共通でないなら、いかで御互の心が理解されましよう。私は是を切に感じ日本人の爲に同情をよせて、自分の米友人等に英語の組を組織して貰ひ夜分英語が容易に習へる樣にしました處が日本人の男子は二晩は來ましたが三晩目から仕事が忙しいからとか何とのか口實の下に參らなくなりました是には失望しないを得ませんでした、かく言葉を學ぶ熱心がないのも一には金儲で心が一杯で向上心などなくなつたのではなきかと思ひました、併し婦人の方は男子よりも永く勉强を續けましたが仕舞には此組もなくなりましたのであります。

以上申上たのは勿論勞働者の家庭の狀態を見聞し

た儘であります、上流の家庭では米人の其と同じ生活をして居られ立派に態面を保つて居られます、只愛に邪推かも知れませんが、日本婦人の方々は御遠慮が過ぎるのか何かしりませんが、御互に疑ひ信用されぬ様に思ひました、其故に事業に關してゝ批評が過ぎて成績があがらず、會等でも感情の行違で圓滿を缺く憂があります。從つて批評され惡く誤解されるが嫌ゆゑ一切手を下さぬとて協同的の事には冷視される方があり又熱心は結果であつても同情が不足でないかと思惟される場合もあります。是も親しく交際されて、基督の御精神、即ち首たるものは僕となるとの教訓を實行される時が來ましたら消滅して仕舞ひませう。大變に有の儘のことを申上ましたが自分が日本や日本の婦人方のため微力ながら盡し度と思ふ念から申上た次第であります。

要するに加州の人は決して日本人の來るを拒むのではありません。何卒西洋になり美しき東洋の長所を貢献して貰ひ度と望み、加之可成西洋の風俗習慣のよき處を遵守して貰ひ、相互に相扶けて文明の度を進め度く切望してゐます、受るのみで、與へると云ふ精神を充實させて行く樣に西洋は東洋に東洋は西洋に奬勵したいもので御座います。

傳道の要義

外村義郎

傳道は如何にすべきか。エスがこの世の中を去りて神の國に歸り給ふ時の一つの大切なる遺言である馬太傳の終りの方馬可傳の終りにある「汝等萬國に行き福音をのべ傳へよ」と云ふエスの言は弟子のみならず又今日直接傳道に從事する者のみに仰せられたのではない、エスを信ずる者凡てに與へられた言でこれ信者の責任である。傳道とは如何なる事か、其文字が示す樣に、道を傳へる事でキリストを傳へ

る事である、「我は途なり」とのエスの御言の意味から考へれば問題は如何にしてキリストに至るかと云ふすである。そこで思ふに一體今日は主に傳道の方法に重きを置いて居る様である、然し私は思ふに傳道は方法でなく精神である。精神の働いて居る處には自然と途が開かれる、第一精神にて第二方法である十數年前私が北海道に居る時、上川に傳道した此處には道廳から作つた立派な道路がありコンクリートの排水があるが申しわけばかりの家がその道の兩側に並び然かも皆空家で周圍には草が茫々と生へて居た、又その序でに雲口と云ふ處に行つた、此處には立派な道はないけれど他よりの移住民が一團二團と住んで居つて草も少なく立派な排水はないけれど自然の排水には、水が流て居た、これと同じく精神なければ丁度立派ではあるが草の生へて居る溝の如くまた空家の様である、傳道は精神ありて始めて成るものである。これは言葉に加ふるに行ひを要する又人格品性が必要である、私の友人にも言葉でよく傳道するが行なきが爲失敗に終り又行も可成り出來言葉も巧みであるが人格品性のなき故失敗した者もある、傳道はキリストを傳道する事なる故言葉のみならず行の上に人格品性を要する、斯く云へば私共には出來ぬ様であるけれど此等に同情、愛が必要である、言葉は上手でも行は少も出來ず共、人格は少し足りなくとも、唯愛と同情があればその足りない處を補ふ事が出來る、私はこの同情と愛のみにて傳道は出來ると信じて疑はない。此の同情にも深きと淺きとある如何なる同情が必要かと云へば即ちエスの持てる同情である、即ち喜ぶ者と共に喜び悲しむ者と共に悲しむと云ふ事よりも以上に深き物であるされば如何にと云ふに割り込んで行く様な同情である、換言すれば二人の爭へる場合に割り込んで調停をしてやる、悲しめる人失敗せる人の心の中に割込んで行て同情する同情で、彼れ等になぐさめを與へ一口に云へば福音を宣べ傳へる救を傳へる事である聖書より云へばルカ傳十五章、即ち一匹の羊が迷つ

たとするとこれは決して故意ではなく一寸した誘導の爲に知らず〳〵引かれて迷つたのである、此一匹の羊の爲に勞苦して九十九の羊を殘して山を攀ぢ、谷を下りて見つけずば止まぬと云ふ考を持ち、其の搜索に出かけ、見出せば喜びて、疲れて居るもかまはず、連れかへる、これエスの同情愛である、一人の靈を救ふに如何に賤められてもいぢめられても救はねば止まぬと云ふ同情が必要である、私考ふにどうも靈に同情する事が乏しい、此處に一人の憐れな乞食か孤兒があれば、皆誰でも同情し一滴の淚を流す、又一人の病人があつて家貧しくて痩せ衰へて居れば同情の淚を流す、が然し私共の家庭の內、親族の內に靈の病人は居ないか靈の孤兒は居ないか、エスは九十九匹の羊をおき一匹の爲に搜しに行き給ふた程のこの同情が私共が靈を救ふ上に必要である。或米國ニユーヨークで道樂者や酒呑等ばかりの間に傳道をするミツシヨンの內にサムエル、ハツトレーと云ふ人があつた、この人、或小さい町に傳道に行つた時、一人の娘を側近く寄せて福音を傳へて居たが其の人の目から落ちる淚が娘の顏に傳はつたと云ふ事である、吾々にこの樣な經驗が幾度あるか一つの靈に同情して其の前で淚を流さず共一室に閉ぢこもり人の爲に歎きし經驗があるか。一度は靈に同情して信仰に入れたが、それが又元に返つて行つた時、尙面倒を見る事を怠つてはならぬ。次の例に一人の寡婦十金の內一つをなくせし故其のなくせし一金の爲燈をつけて大掃除をし見出せば友と喜んだとある金をなくするに二つある。一つは懷か何かに一寸入れて粗末にして紛失する時と、餘り大切にしまいすぎてなくするとある、私がある時何かの善事の爲金貨一圓をもらつた、うれしくて三重も四重も包み大切にしすぎた爲終に紛失した、これは金をしまいなくする事であるが、これ程不經濟な馬鹿な事はない、活用せば眞の利益があるにしまい込むとは愚の至りである、今日敎會の狀態はこれと同じである、巡廻して見るに名簿には名があるが本人は居な

い、即ち屈がしまいなくされて居る事が多い、今日傳道を妨げる者は佛教でも何でもないこの墮落した信者である、即ち一度救はれたからとて、最早同情をせず棄てて置くからである、これ大なる誤であるシモンが大膽なる信仰を云つた、時エスはさう云ふが麥を篩ふ樣に篩はれる事があるが汝のために祈ると云ひ給ふた、エスは汝等と云はず汝の爲にと云はれるのである、大ざつぱに云ふ事はいけない、もつと目的を明かにし徹底した考へが欲しい、祈りの内にも同じ私は母を夫と導びかねばならぬ、何卒神よ彼を導いて下さい、とこれでなくては成功はしないエスは「我汝の爲に祈る」と、神かけて祈るので、あるべきである、殊に大切なるは其の眞の同情が吾等の内に燃えて居るかどうか、傳道せんとする者はこの同情を持てる者であるべきものなるが、エスは「火を地に投げ入れん爲且その火の燃え立たんが爲なり」と、この同情の火が心の中に燃えて居るならばもう傳道は出來る、なほ愛と云ふ點にても同じ、エスは自分の氣に入るから愛すると云ふのではない自分に斯くしてくれたから愛する、又私の事なる故暱みなる故友なる故愛すると云ふでもない、敵をも愛すると云ふ愛である、一方には「友の爲に命を捨てるこれより大いなる愛はなし」と云ひ給ひしが又自分を蹴り唾し自分を十字架に付け肉をさいた者をも赦し彼等の爲に祈をせられた、即ち愛は諸德の帶であると云はれて居る、愛は實に大切なる物にてコリンタ前書十三章にある如く「天の使の言を語るとも若し愛なくば鳴銅や響く鈸の如し」と、この愛にみたされて居るならば傳道は出來る、この燃え上がれる同情と愛が肝要である事を信じて疑はない、これさへあれば道は自然と出來る。

途は十人十色にて人々により異つて居る故問題が多くなるが、要するにキリストを宣べ傳へるには右に云つた二大要素の他に平易な言葉を用ゆる事が大切である、今日の傳道の言葉は難しすぎる、さればとて遠慮する必要はないが、可成簡易に分りやすく

しなければならぬ、成功せる傳道者は最も低き人を標準としてはなした、同時に明瞭でなければならぬ理屈めいて長くなり要領を得ない様では惡い、個人の時にも集會の時にも明瞭平易でなければならぬ、次に傳道は道を傳へる事キリストを傳へる事であるが、即ち福音を傳へる事である、福音とは神が人となりてあらはれ、その方が十字架にかゝり死んでよみがへり、天に上り今も尚生きて働き給ふ又聖靈が云ひがたきのなやみをもつて祈つて居ると云ふ事でこれを始めに敎えねばならぬ、私は巡廻傳道をして方々に見る事であるが洗禮をうけた人は多いが實はその敎會にふえて居ない、田舍へ行つてきけば皆都に行くからと云ふ、又都會に行けば居ない、これ墮落して居るからである、これ即ち福音をよく知らず、又斷片的に道を聞いては居るが徹底して居ないからである、これ實になげかはしい。四年半前なるが私が千葉から大連まで巡廻傳道をした時、未信者の爲に話をしたつもりであつたに、信者しかも四年前に受洗したと云ふ人々から、始めて福音が分つたと云ふ意外な言をきいて驚いた、この時は千五六百人の求道を得て愉快であつた。

個人傳道も必要であるが家庭集會が又必要である或る所の話に家庭集會を開いた處其の翌日近所の人がきて「今度來た方は親切でいゝと思つて居たら、その筈で昨日讃美歌をきいて始めて耶蘇敎である事を知つた」と云つたそうでそれならばこれまでした事はなかつたがしましようと云ふ事になつた家庭がある、斯く開く家庭が祝福されるのみならず敎會に行き度くない人で、話のみ聞き度い人の橋渡しとなるので後には敎會に行く様になるのである又終つて後質問に應ずる事がいゝこれが爲個人傳道で出來るキリスト敎はこちらから賴んで信仰してもらう様に思ひ弊害ではあるが救はれた後も牧師が訪問せぬとて自分は一度も行つた事はないが小言を云ふ人がある。よつて家庭集會は兩方とも足をはこぶから最も良い。

又種々の人に逢ふ中には隨分頑固な人に出くはして手に合ぬ事があるが斯る時は祈禱が大切である、私は一人を救ひ又訪問せんと思ふ時には其の前の晩十二時か一時頃に祈るのである、熱心に祈つて居ると丁度前に祈つて居る人を前に引きつけて居る樣な感じをする、するとその人の爲に如何に頑固でも道が開かれる。私が三十九年に臺灣に行つた時子供が病氣でステーションに見送りにきて居つたが、かほが見えなくなると泣き出した、その聲が耳につき靜岡邊まで心地が惡くて行つた、吾々が死ぬ時にも、かうかしらと思つた位であつた、着いてからも絶えず忙しく旅館に宿つて居たので靜かな時もないので夜一時頃起きて祈つた、そして何となく子供の病氣が良い樣に思はれた時は手帖につけ又惡い樣な時にも書いて居つた、そして手紙の來た時にあはして見ると合つて居たので祈の大切なる事を今更に思ひ、我〳〵と神と人とよく合ふ事を知つた、これをある友人にはなした處が、それについていゝ本があるとギリシヤ語のエスの夜半の祈と云ふ題にたの說敎をかいた本を敎へてくれた、私は今もなほ祈つて居る。
又理屈づめて參つたと云はせる人があるがこれは考へねばならぬ、理屈が主でない先方を救ふのが主である、唯同情と愛をもつてしなければならぬ。

◉溫故片々

辻村靖子

○謦咳に接す　人に面接することを云ふ、謦咳とはシハブキ、セキバラヒ、謦ヅクロヒ、の意味なれば、其人に會ふと云ふを、謙遜して謦咳に接すと云ふ。

○中らずと雖も遠からず　ある事に全然は的中せずとも推しはかりて餘りの相違はなきをいふ、四書の一大學に「心の誠をもて之を求むれば、中らずといへども遠からず」とあるよりいでゝ、たとへば慈ある母の、兒の哭き號ぶこゑをきゝ抱かれたきか、乳汁欲しきかと、思ひ求めて應ずるとき、大方は兒の求めにあたるが如きを云ふ、知識なくとも經驗なくとも、まごゝろ一つにて中るなり。

○滄桑の變　神仙傳、書言故事など云ふ古き書にみえて、東海の三度變じて桑田となるをみると云ふことあり、夫より唐詩にも、更にきく桑田變じて海となることを等と作られ、人間の榮枯盛衰の定まりなきに、比べて云へり。

花の籠

母鷄

母雞の雛を翼の下に集る如く

母雞が納屋の前に、小さなひよつ子十羽と一緒に住んで居りました。そのひよつこはどれもこれも、その頭の方に、うぶ毛に蔽はれた黄色い珠があつてその中に二つの黒い小珠がありました、これは皆さん、ひよつこの目だつたと私は思ひます。

此等のひよつ子は、その長い黒い脚のあつかひかたを、やつと覺えかけて居た所で、何かをあさりながら、大きなお庭をヨチヨチ歩きまわつて居りました。ひよつ子は不恰好でしたけれど、それでも母鷄は、それはひよつこが好きで、そしてお得意なのでした。それもその筈、お母さんなのですもの。母雞は大抵いつも土を掻いてゐました、それが礦山夫で黄金をさがして居るのもなければ、又お腹が空いて、食物をあさつて居るのでもありませんでした。けれど母雞は始終小さな子供達のことを思つて居ましたそして、子供等が大きくなるには、食物が澤山要ると云ふことを知つて居ました。日がな一日自分の爲には御飯もなしに、堀りつゞけて、一時間のお晝休みさへない母雞の樣子を、まあ考へて御覽なさい。大概土を掻く度に母雞は、何かしら見付けた樣子でした。けれど母雞は唯の一度でもそれを自分は食べないのです。母鷄はいつでも、ココココーコーとひよつこを呼びます、するとひよつこは覺束ない足で一生懸命に走けてくるのです。時々、ひよつこは飛ぶのと走るのを一度にするやうに、翼をバタバタさせたりなんか致します。母鷄とひよつこを見るのが私はいつでも好きです。母と子とどつちが一倍しあはせでせう。どつちとも云へませんね。イエス樣もこれを興あることに思召しました。なぜと云へば、イエス樣は、母鷄とひよつ子のことをお話しになつてゐらつしやるからです。子供各位はイエス樣のお言葉をお存じですか。

小供各位は野良犬を御存じでせう。骨を見るといきなりつかんで、うなり乍ら走けて、それを隠せる所へいつて、ひとりで食べるのを御覧になつたでせう。ところが母鷄はいつでもひよつこを呼んで、自分が見付けたものをやるのです。小供各位はどつちがお好きでせう。

子供にもかういふ風に二とほりあります。よろこんでお友達に分けてあげる子供と、自分ばかり一人で占め切りにする子供と、どつちがしあはせな子供でせう。

壜の中の子供の手

富者の神の國に入るよりは、駱駝の針の穴を穿るは却て易し(聖マコ傳一〇の二五)。

このお言葉は怖いやうな氣がします。神様のお國に入れず、神様のかゞやくみ國の光りや美しいものや、善いお友達や、喜悦から、すつから閉め出されるとは、怖しいことです。それにまた、お金持の人たちが、こんなに多勢居ますのに。その人達が、みんな、神様の御國に入れさうもないなんて、なんと怖ろしい事でせう。

多勢の人がこのお言葉に當惑します。けれどこれは、私達の救主のイエス様のお言葉ですから、眞實にちがひありません。イエス様のお言葉はいつでも眞實で、いつでもやさしい愛で一ぱいなのです。

イエス様は、お金持ちの人は神様の子供になれない、神様のお國に住むことが出來ない、と仰つしやつたのではなくて、たゞお金持ちの人には、入ることが、それは大變に難かしいのであるといふお積にちがいないと思ひます。何故むづかしいのでせう?神様はたしかに、貧乏人と同じ樣に、お金持ちの人も、可愛がつて下さるのです。神様は、其人が、貧乏だから、又は粗末な着物を着て居るから、又は小さなむさくろしい家に、住んでゐるからといふわけで、誰でもを可愛がつて下さるのではございません。

神様が私達を可愛がつて下さるのは、私達が持つてゐる物の爲でもなければ、又持たない物の爲でもありません。たゞ私達の爲に私達を可愛がつて下さるのでございます。神様はたしかに、お金持ちが、入つて來るのを待つていらつしやいます。そんなら何故そんなに難かしいのでせう。

ある日、一人の子供が、お母さんが卓の上にお置きになつた、美しい瓶をおもちやにして居ました。お母さんが御覽になりますと、子供は手を瓶に入れて、それを拔くことが出來ないでゐるのです。お母さんは手を添へて、ぐん／＼お引つ張りになりましたが、小さな手は拔けません。お母さんはお父さんに來ていたゞきました。お父さんもして御覽になりましたが、子供の手は瓶にしつかりはまり込んだまゝです。どうしたら拔けるでせう。勿論どうかして拔かなければなりません。

お父さんは、瓶を破つたらばとお思ひになりましたが、瓶は大層貴いものでしたから、さうしたくないとお思ひになりました。けれども、どうしても他に手の拔きやうが無ければ、破らなければならないとは知つて居らつしやいました。其處でお父さまはその子供に、おつしやいました。

「ねえ、もう一度やつて御覽、かういふ風に、手を開いて、指を眞直に伸ばして、それからずつと、引いて御覽なさい。」

すると子供は

「いゝえ、お父さま、僕はお父さまみたいに指を眞直に伸すことは出來ません、お金が落ちて了ひますから。」

この子供は、今迄お金を手にしつかり握んで居たのです。お金が持つて居たさに手を開かなかつたのです。手が開けなかつたのも不思議はありません。勿論拔けやうはありません。

けれど、その子供が、一旦指を開いて、お金を落しますと、すつとわけもなく手は拔けました。

神様のお國への入口は、瓶の口の樣に狹いのです

人はらくに入れます、けれどまづ第一にその手を神樣に開かせなければなりません。これは持つて居るものは、何でも彼でも神樣に上げなければならない自分の分にと何一つとつておいてはならないと云ふことなのです。「若し我に從はんと欲ふ者は、己を棄て、その十字架を負ひて我に從へ」とイエス樣のおつしやつたのも、この事です。イエス樣は私達のの爲に、御自分の持つていらつしやるものを、みんなお棄てになりました、私達はイエス樣の爲に、自分達の持つて居るものを、みんな棄てなければなりません。

それなのに、私達は自分達の爲に使はふとして、自分の持つて居るものを、手に固く握つて居たがります。

お金持ちの危ないことは、自分のお金をあんまり大切にし過ぎて、天國の門でそれを捨てやうとしないことです。かうして其人は外に立つて居るのです神樣が入れて下さらないのではなくて、其人がお金にかぢりついて居るからなのです。其人は、「これは私のだ、神樣へあげるのは嫌だ」と云ひ續けて居るのです。前の子供は「僕は手を抜くことが出來ない」と云ひました。けれどそれはその子が抜かうとしないから抜けないのです。抜く氣があれば抜くことは出來ます。手を閉ぢ込めたのは自分の固い握り拳、お金を握んで居たその小さな手だつたのでございます。

（以上　松葉子）

捜眞女學校共練會の歌

（讃美二八一の譜）

一、ふみのはやしに　いくとしつき
みがくさとりは　はなとひらき
たまとみのりて　やみをてらす
わがつとめこそ　げにさちなれ
折（いざもろともに　たゆまずねりて
返（主よりさかえの　かむりうけなん。

二、いくさのにはの　よにしいでし
なやみくるしみ　おそひくとも
みのくろがねと　きたへあらば
おそれですゝみ　かちぞえられん。

三、ちゑとちからは　よしみつとも
とくをおびずば　あるかひなし
きよくたゞしき　ひとのみさを
おさめやしなひ　よにたゝまし。

和歌

母亡くなりて中陰の間によめる

辻村靖子

吹きしをる夜半の嵐のはげしさに
　この柞葉のたへすやありけむ

冬の日の明けぬとしれどぬえ草の
　おきいでむ力なきこゝちして

よその世に我もいぬやと思ふまで
　夕になれは物のかなしき

古き枕古き衾をとりいてゝ
　ねに咽ひけり人めなけれは

俤はみに添ふ影と離れぬを
　なと其聲をきくよしのなき

枯のこる枝たちさらぬ小鳥の
　をや戀しさになかぬ日もなし

しくれする袖も袂もはゝそはの
　はゝの縫はしし物にやはあらぬ

◉温故片々

辻村靖子

○壟斷　利益を人にわかたず、獨り占めにするを云ふ。孟子にありて今より二千年の往古市場をたて、賣買し有る物と無き物と交易するとき、賤しき丈夫あり、いちはやく小高き丘にのぼり、市の景況をみまわして、廉きを買ひたかきを賣り、獨り其利を恣に占めたりとあるよりいづ。壟斷とは、タチキリシ、コトク高き處なり。

○河井總幹事の渡米

來る五月五日より米國加州ローサンゼルスに於て開會さるゝ北米合衆國女子青年會總會に臨席のため、我日本女子青年會は河井總幹事を派遣することとなり、同幹事は本月三日横濱出帆の便船にて渡米の筈なり。尚ほ同幹事は此總會後太平洋沿岸に於ける學校青年會及同地方に散在せる日本同胞姉妹を訪問し、日本婦人の渡米の狀況其後の生活狀態等一般を視察し、同時に日米婦人の友情を溫めん希望にて暫く滯米の都合なり、歸朝の時日は豫定し難きも多分來る十月頃となるべし。同總幹事の旅行中の記事所感及視察の實況、調査の事項等は隨時本誌上に掲載する事とすべし。吾人は目下日米間は加州を中心として諸種の問題に逢着せる場合に於て我が河井總幹事を送るの決して無益ならざるを確信すると同時に其の旅程の上に天祐の裕ならん事を祈るや切なり。

○ミス、マシウ　一昨年來米國に歸りて東京女子青年會の事業擴張の基礎を造らんために盡力中なりし東京女子青年會總幹事ミス、マシウは好結果を得て去る三月下旬無事東京に歸任されたり。

○慈善音樂會　東京女子青年會の慈善音樂會は鈴木乃婦子、石川靜子兩姉の御親切な御世話により準備も滯なく二月廿七日に上野音樂學校に於て開きました。前日來の春雪は雨となり止む景色も見えませんのでこれでは來會者も少なからんと心配致しましたが、さて會場に參りますと既に一時頃より陸續とお出での方があり下足は中々の賑ひで受付に人も揃はぬ中に切符を買ひたしと御申出なさる方もあり經驗の無い係員のまごつくのもおかしうございました。雨を冒しての來會者は定刻には既に堂に滿ち中には座席なく立てる方さへある程でした。

やがて第一部の四部合唱は始まりそれより次の如き演奏がありました。

第一部

合　唱

ピアノ獨奏　森本ぬい子孃

獨　唱　鈴木乃婦子孃

セロ、ピアノ合奏　ベツオールド夫人

ニプコー氏

獨　唱　ウインデツト氏

第二部

獨　唱　ゴルドマン夫人

ヴアイオリン獨奏　ハリソン夫人

獨　唱　ベツオールド夫人

ピアノ獨奏　ベツオールド夫人

合　唱

何れも妙なる調べ淸き音に、聽衆の心自ら恍惚として一演奏ごとに拍手の音は堂にひゞき渡りました終りに「君が代」の合唱がある皆外國の方でしたが日本語の發音もお上手に立派に御唱ひになりました、それで閉會いたしました。誰方も喜んで本會の爲に演奏をして下され又此の次をも約束して下さつたお方さへあり皆樣が會の爲に喜んで御盡し下さつた事は一同の深い喜びと滿足でございました、演奏者に花を御贈りしてはとのお說もありましたが切角の御好意を無にせぬ樣何も御禮めいた事はせぬ方がよからんとて何事も致しませんでした、當日接待や受附は會員、聖書の組の方々が熱心に御助け下されたおかげで萬事都合よく運びました、下足は人數の不足のためか皆樣の御歸りは大混雜にて中には日暮までも御待ちの方もありて折角の感興をそぎました事は誠にお氣の毒樣で御座いました。

入場者は七百五十名餘で純益金は本會事業の爲に用ひます、雨天にもかゝはらずかくも盛大であつた事によつて皆樣の御同情が如何に深きかを思ひ感謝せずには居られますん。（大呑久子記）

○好友團狀況　一月から痲疹やおたふくかぜの爲めに八名から十名の缺席兒がありますが每日三十五六名位相變らず樂しさうに集ひますこの頃は光りと云ふ題の下に個人の責任と云ふことを敎へて居ります、そんなむづかしいことを申される方があるか

も知れませんが幼稚園は字の通り幼兒の遊び場なのですから朝から午後まで遊び居るのですそして其遊びが面白いのです決して無意味に遊び居るのではなく敎へ様とするその眞理の含んだ遊戯なのです子供は遊ぶ時には遊びそのものになつて遊ぶものですから知らず知らずのうちに遊戯の眞理が兒の心に植つけられます宇宙に一つとして他に關係なく出來てるものはないと思ひます自然物を見ましても種子が地中に入りまして芽が出まして花の開きます迄は雨が降つたり太陽が輝つたり人間の補助を受けたりしなければなりません亦この芽や花が人の目を樂しませたり食物となるのです人間社會もこの法則に支配されて居るのです個人が集つて互に助け合ひ一致しはじめて完全な社會をつくることが出來るのです社會の一員でもこの法則を破る樣なことがあるなら他に悪影響を及ぼし完全になることは出來ません一人の悪行爲が世を害することのあるのは珍らしくもないことですそれで個人々々の務は違つて居りますけれどもどの様な務でもこの世になくてならぬものなのです例へば炭燒がなかつたならば冬寒くて困りますし百姓がなかつたら私共は死でしまはなければなりません工夫の手になる道がなかつたなら郷里の郷迄も走る汽車もその用をなすことは出來ません此の様な例を引いたら數限りありませんがなにしに互に相俟つて其務を盡してこそはじめて完全になるのです個人が其責任を忠實に盡すと云ふ事は實に大切なことなのですそれでこの大切な眞理を幼き心ふかく植つけたく毎日この様な遊びをいたして居ります皆様御暇の折にはこの可愛き子供の遊びを見に御出かけ下さい先日足利の幼稚園にお働きの内ヶ崎姉參觀に來られ金圓御寄附下さいましたので早速カナリヤを買ひました毎日小供は樂しんで掃除をしたり食物や水をやつたりいたして居ります。

日曜學校の方は朝九時に始める様になつてから半分位になつてしまいました然し開校後半年以上になりますから參ります生徒も定つてよい日曜學校にな

りました。(大槻主任報告)

○宮城學校青年會

春とは申しながら未だ中々御寒う御座いますが諸姉様方はます／＼御壯健に御働きの御事とよろこばしく存じ上げます。扨當校女子青年會に於きましては昨十二日午後三時半から當校自修室に於て大正四年度の青年會役員を選擧いたしました、當選致せし方には左の通りで御座います。會長、片桐八重。副會長、宗像千代。會計、田中靜江、長池ふみ。記録書記、松倉たま。通信書記佐藤みさほ。誘導委員、木村とし。運動部委員、福井こう。集會委員、梶原小松。慈善委員、佐伯ますゑ。選擧が終へましてから、五年級の教室に於て今迄の會長役員と新に擧げられました會長その他の役員が集まりまして、感謝の祈りをいたしなほ今後の當青年會の働きの相談、又は今迄の委員達の青年會に對する希望や、各個人、自分の後をついでそれ／＼働いて下さる方々にどんなことをするのか自分々々の務をおはなし致しなどして五時頃解散致しました。尚是れまでは親睦會委員長以下委員が五六名誘導委員長以下委員數名。集會委員長以下數名の委員が御座いましたけれども、今迄の經驗によりますと、別にそれ等の必要もないもので御座いますから今度からそれ等をなくしてしまいました。只集會委員を一人誘導委員を一人だけに減じました。親睦會委員長以下は特別の場合に臨時に設けることにいたしました。その代りに新らしく慈善委員、運動委員を設けました、それは昨年の二學期から小供達を毎土曜日に學校の校庭を開きまして午後一時より三時まで自由に遊ばせ、又時間を幾分ときめて、讃美歌を教へたり聖書の御話しをきかせたりすることを設けましたのでそれ／＼の監督を土曜日毎に交代して大抵三四人宛で致します、これは矢張り青年會の委員達が致します。それで今度は誰の番といふのを定めたり、又は今度は如何なる遊びをさせ、如何なる御話、どんな讃美歌を教へなどゝいふことを始終頭において世話する人をつくりました、これを運動部の

委員がきめます、又慈善の方は先學期から氣の毒な人病人等のためにそう云ふ人々を幾分か慰めて上げたいと思ひまして草花を學校の花壇に植ゑました、それで今年ゝ春花が咲きましたら早速實行いたすつもりでその方の係りを受けもちの人をきめました。未だ〱大きいことは出來ませんけれども、少しづゝでもよい働きをしたいと考へて祈つてをります、先學期から始めました販賣部の方もなか〱成績がよろしう御座いますから御安心下さいませ。これには役員全部係つてをります。ます〱本部の御働きの上に神の御惠みと御力がありますやう仙臺から祈つて居ります。（岩崎郁子報）

○東洋英和女學校青年會　去る二月廿八日午前九時十五分より當校講堂に於て祈禱會を開き候。ミス、ブラックモーア「祈禱すべき三大要點」と題し有益なる講話をされ、熱心なる數名の祈禱ありて十時二十分前に閉會致し候。集會人數二百餘名に達し申候。

○共立女學校青年會　私共の青年會にても過ぐる數ケ月間に十七名の新らしき會員を加へられ皆々望みを以てつとめて居ります。短かい間にこれ丈多くの會員を得ました事は眞實に嬉しい事で御座います、集會は毎月曜日に傳道部祈禱部本部と云ふ順序にて開いて居ります之れは青年會員のみの集まりで御座います、毎月第四の月曜日は本部役員の司會の下に全校集會を致します、折々は特別に一人の先生に御講話を御願いし時々は自由な感話及祈禱會に致すことも御座います、近頃これらの集會にては感話又は祈禱などを皆様が躊躇せずに我も〱と一分時も惜しんで致すやうになりましたので誠に充實した美しい集會を致すことが出來るやうになりました小さい事で御座いますが喜ばしい事で御座います。販賣部も都合よく誠に盛んに致して居ります。左に今年度の役員委員を御報告致します。

本部　會長　長谷川豐子　書記　稻沼　須磨
會計　原田　壽子

傳道部長　武笠みつ　書記　岡野敏枝
　會計　工藤豊子
祈禱矯風部長　篠原けい　書記　井上みつ
　會計　平野初榮
文學部長　兒玉彌代　書記　伊藤つね
　會計　石川政枝
運動部長　坂本とし　書記　牧野きみ
　會計　須藤うめ
音樂(新設)部長　小山千慈　書記　添田もと
　會計　小澤春枝

○横濱の萬國學生祈禱日

空の少しばかり曇つた二月二十八日の午後四時神奈川の捜眞、山手の共立、フエリス三校の女子青年會が主催となつてフエリス女學校の講堂に於て、萬國基督敎青年會聯合祈禱會を開きました、出席者は百五十人ばかりで横濱山下町の支部からはミスベーカーも御出席になり、其他右三校の外共立女子神學校聖經女學校等の敎師生徒多數御集り下さいました。當日の司會者は捜眞の高田姉にて、先づ讃美歌合唱の後、祈禱、聖書朗讀、再び讃美を唱へ、藤田貞子先生の御講話に移りました、先生は聖書の句を所々より御拔きになつて懇々と左の如き主意に就て御說き下さいました「我等は神よりの大いなる特權を有する者である、故に我等は此の賜物に對し大いなる感謝の念を持たざる可からず、此の感謝は如何にして顯すやといふに、與へられし特權に對して責任を感じ此の責任を盡すべし、さらば責任を全うするには如何なる方法を以てなすべきかと云へば、吾等各々が學校にて得し種々なる賜物を最善の方法に於て是を活用する事最も必要なり」御講演終りて後十人ばかりの熱心なる祈禱の後讃美歌を歌ひ、五時過ぎ各々得云へぬ喜悅と希望とを與へられて家路に就てました。(フエリス女學校青年會書記上野睦美報)

○東京の萬國學生祈禱日

(二月廿八日)東京女子青年會、牛込田町日本基督敎女子青年會本部に於て午後三時より開く來會者三十六名、河井總幹事の講話ありてより數人の熱心なる祈禱ありき。

女子學院青年會　午後七時より校内に於て開く來會者二十五名三谷民子先生の講話あり。

女子英學塾青年會　講堂に於て午後二時半より開く集會者五十名星野先生の「祈禱について」のお話あり。

青山女學院青年會　午後一時十五分より講堂に於て開く百二十二名集會し小畑久五郎先生の講演あり

傳道女學校青年會　敎會　年會　ありし爲特別の集會を開かず各自此日を守る。

香蘭女學校　午後四時より講堂に於て開き長谷川きた子女史の講話を開きたり。

立敎高等女學校　午後一時三十分より寄宿舍内にて開く檜山しげ子林野やす子兩姉の感話あり集會者六十三名なりき。

駿臺英和女學校　小石川イムマヌエル敎會に於て零時三十分より開く二十五名の集會者あり校長ミスホイトマンの勸話ありき。

○**東京協同傳道**　は本月八日より擧行せられる筈にてそれ〳〵準備中なるが、其豫定日程は左の如し。

四月八日(木)午後七時　青年會館　敎役者並有志打合せ祈禱會
同　九日(金)午後四時　上野精養軒　新聞記者招待會
同　十日(土)午後一時半　麴町區富士見町六丁目富士見町敎會　女學生大會
　辯士　本郷敎會牧師　海名　彈正先生
　　　明治學院長　井深梶之助先生
同　十日(土)午後七時　青年會館　學生大會
同　十一日(日)午後二時　同　聯合禮拜
同　十二日(月)午後六時　日比谷公園　活動寫眞會
同　十三日(火)午後五時　帝國ホテル　名士招待會
同　十五日(木)午後二時　麴町區大手町一丁目衛生會　婦人大會
　辯士　大阪東京大學敎授　廣岡淺子女史
　　　農學法學博士　新渡戸稻造先生
　　　東京傳道義會主事　外村　義郎先生
同　十五日(木)午後七時　青年會館　店員大會
同　十七日(土)午後二時　青年會大天幕　大演說會
同　十七日(土)午後七時　同　同

同　十八日(日)午後二時　同　同
同　二十日(火)午後七時　青年會館　矯風大會
同　廿二日(木)午後七時　同　社會事業大會
同　廿四日(土)午後三時　日比谷公園　信徒大會
同　廿五日(日)午後二時　日比谷公園　日曜學校生徒大會
五月一日(土)午後二時　青年會館　感謝祈禱會
同　一日より二週間内　各教會　傳道演說會

右の外諸學校諸工場其他に於ける講演期日講師等は必要に應じ當該委員より發表披露さるゝ筈。

○白國同情人形展覽會　去る二月二十日より同二十八日まで三越呉服店三階樓上に開きたる白國同情會主催の人形展覽會は大成功なりし由にて其純益金は左の如くなりしと。

收入合計	金四千百〇壹圓五拾五錢	
内	金千〇五拾六圓六拾壹錢	入場口寄附金
	金五百拾八圓〇九錢	玩具類賣上高
	金千九百七拾八圓拾四錢	人形賣上高
	金五百貳拾八圓七拾壹錢	外國人形賣上高
	金貳拾圓	寄附金
支出合計	金千百圓拾貳錢五厘	諸雜費
差引	金參千壹圓四拾貳錢五厘	純益金

消息

○エルキントン氏(新渡戸博士夫人令兄)　二月上旬御渡來目下各所遊歷中なり、同氏は先年來本會が聖書を購買し各所に配布せんがため多大の同情をよせらるゝ方なり。

○北原延子　朝鮮を去り目下東京に住居され、折々本部の事務を手傳はる。

○木澤勝子　御祖母を失はれその遺骨を奉じ關西に赴むかれ直ちに歸京せらる。

○高水初子　二月十八日臺中にて島田健藏氏と結婚されたり、御住宅は臺中東勢角大南庄なり。

○加藤季花子　東京帝國大學基督教青年會幹事藤田逸男氏と三月十三日本鄉教會にて結婚の式を擧行されたり。

○寺内ぶん子　二月二十一日、東京富士見町教會にて受洗。

○渡邊つね子　三月七日東京聖愛教會にて受洗。

○太田泰子　同上。

○大西絹子　病氣全快せられ從前通り安藤坂寄宿舍を監督。

○多賀艷子　三月上旬鄉里より上京されしが目下女子英學塾の事務を手傳はる。

○竹尾けい子　大川きよ子と共に大塚に寓居。

○ハーツホン氏(女子英學塾教授)　三月中旬米國より歸京され四月より塾にて御教授ある由。

○栗原よし子　稱井を辭し大連に赴任さるゝ由。

○湯田きみの子　昨年來耳鼻の治療のため東京金杉病院に入院なりしが目下令兄の御宅にて御靜養中。

○佐柳千代子（千葉縣知事令夫人）　順天堂病院に入院中なりしが全快にて歸縣されたり。

○淺井はる子　今回弘前高等女學校を辭し歸京。

○上野俊子　女子英學塾を卒業され米澤に赴任。

○澤口つや子　同右、淺井はる子姉の後任として弘前に赴任。

○渡邊つね子　同右、今回吉本と改名せられ卒業後直ちに湯田きみの姉の後任として札幌町立高等女學校に赴任。

○大西靜子　女子高等師範を卒業にて鹿兒島縣立第一高等女學校に赴任、同氏は立出前は富士見町教會にて受洗。

○ミス、カフマン（東京女子青年會幹事）　女學校幼稚園等を視察のため關西に赴き二十五日歸京。

○手塚保子　函館なる同姉は三月女子御出產。

○岡山はな子　盛岡市の教會へ轉せらる。

讀者便り

○親身の姉様に逢つたやうに

在布哇　伊藤くわ

毎度「女子青年界を」御送り下さいまして有難う存ます、皆々様には益々元氣の由雜誌で拜見致し御喜び申上げて居ります、いつも青年界を隅から隅までしまいには廣告までも繰返し／＼拜見致します、そして皆様が寢食も忘れて盡して被居る御事業が日々發展して行く御様子を拜見して感謝いたして居ります、私が當地に參りましてからはさぞ淋しい事と思て居りましたのに事實は反對て未だホームシックとか申すものに懸つた事は一度も御座いませぬ、日本人の御友達では女子大學を數年前御卒業になつた方と當地の教會の傳道に從事なさる前田夫人と御二人位のものですが米國女子青年會の方々からまるで十年の知己の様に親しく隔てなく交つて戴きますので少しも一人旅の淋しみを感じた事は御座いませぬ。去る一月十四日の晩は米國女子青年會主催の手に一同のディナーが御座いまして私も會員の一人として參加いたしましたが各國から隨分大勢集まられました、然し日本のテーブルは僅か三人で御座いました當市で第一の大きなセントラルユニオン教會で御座いました、　州メンバーを先頭にオハヨー、マセチユーセッツと云ふ順で次に英國、獨國、佛國など可成り集まつたやうで御座いました、支那からは十名も集まりましたのに日本からは只三名しかもその中の一人は日本人種といふだけで布哇生れの方でしたから淋しいテーブルで御座いました、私共は異人種であろうが何であろうが神の御前では皆同じ御弟子であり兄弟であると全くその通りで私共など食事中に失禮過ぎる位默つて居りますのに向側や隣の方々からニコ／＼と話しかけ

られ少しも恥かしい心細ひ思ひもせず愉快に過ごす事が出來ました。

當地に參りましてから私はメソヂスト教會に參つて居ります、それは當地に參てはじめ少しも様子がわかりませぬでしたので上陸以前までミセスウオーカーと來て下つた牧師さんの教會に參るので御座います、そして日曜學校は少さい子供の級を持つて居りますがこの可愛いらしい天使みた様な子供を導いて參りますにはもつと〳〵信仰を進めればならないと心に鞭うたれるので御座います、日曜日は矢張り朝九時から十時迄日曜學校でそれから十一時半迄説教と禮拜で御座います、朝は八時から御座います其他一週一回の祈禱會が御座います、その他にのべつ會員の中で集會が御座いますが皆懸離で御座いますし私の居ります處は町に遠い淋しい處で御座いますから私は參られませぬ。もう一つ婦人會が第一と第三の火曜日の午後二時から教會で御座います。凡そ八九人位集りますが先づ讃美歌から始まつて、聖書の後で短い牧師さん及前田さんの御話があり祈禱の後約二時間位袋物を造るので御座います、日本にずつと前に御出でになつたと云ふミセスホーセーと云ふ方が敎へて下さいます。此仕事は後日教會の爲のバザーの品物で御座います、會費はわずか二十仙で御座いますがそんな少し位でも他日神様の御役に立てる爲にするかと思ふと何となく愉快で人の爲になると云ふ樂しみから一生懸命出席致す様になるので御座います。先日マッシユー先生に御目にかゝりまるで親身の姉様にでも逢つた様に嬉しう御座いました、然し先生も短時間のことで御忙しく御話もろくに出來なかつたので殘念に存じました、計らずもミスターエルキントンに御目に懸て昨年バイブルを戴いた御禮をのべる事が出來たのは眞實に嬉しう御座いました。日本に被居る方でも御目に懸つたり御禮を申上げたりする事が出來たい方があるのに私はほんとに幸福なものであると其夜の寢む御祈り時は心から滿足にみちて御禮申上げました。

○私の此の室を圖書室にする

横濱　宮澤操子

過日ははる〳〵ミスレーガン御見舞下され又今日は有益なる多くの暦を御送り下されし事誠に有難く厚く御禮申上ます。早速患者の間に配らせました皆非常に喜び私より御禮を申上げてくれる様にどの事で御座います。院長に一つ看護室に一つ二十八の患者に一つ宛丁度行渡りました斯く青年會の方々の御盡力により失望の淵に沈み日々淋しく送り居る此病院の患者の心に少しなりとも力と慰めを與へる事の出來し事何よりも嬉しく感謝致して居ります、思ひめぐらせば丁度去年の十二月の今日此の病院に入院いたしましたが、あと十日で丁度百日になりますが過ごして見れば長い様な短い様な氣がします。始めて東京の守屋博士に肺結核の初期であるとの診斷を下されました時には一寸驚きましたが「わが生けるはキリストのため、死るも又我益なり」と凡てを神の御手に御任をいたし治療いたして居りました處僅か四回の注射をいたした丈で全治いたして終いました。あまり早い全快に皆々驚いて居りますが之れもみな全能の神の御力と皆様方の厚き御祈の御蔭と有難く感謝いたして居ります。父等の其喜びと申しましたら「あゝ有難い〳〵命を助けて下さつたか」といつも枕元に來ましては獨言いたして居ります。

眞實病氣中に賜はりし神の聖恩はとても〳〵口にも筆にも盡す事は出來ません、多くの教訓を與へられしは云ふに及ばず、修養會にて御目に懸りし横濱の城戸先生や其他の諸先生又は信仰上の友人等が代り

〳〵に信仰の鐘を御運び下さいますので殆ど飢えも渇きも覺える暇もなく又淋しさを感ずる暇も御座いませんでした、そして自分の身はずつと神の御許に近づけられた樣な氣がいたします。斯く多くの患者の中自分一人が溢るゝばかりの恩寵に浴する事のあまりに勿體なく、どうしても他の病人にも傳へずばと思つて居りましたが病臥の身の如何に詮方も御座いませんでしたので何か宗敎上の本によりては如何がと思ひつき病人の爲此の病院に圖書室を設けたき由橫濱女子青年會のミス、ベーカーに御相談いたしましたが、直ぐに御賛成下され色々と御盡力下さいましたので、半月ばかりの中に斯くも多くの有益なる本や雜誌の集まりました事誠に嬉しく津田先生を始め御盡力下されし橫濱の青年會共立女學校の青年會の方々其他御寄附下されし諸先生方に厚く〳〵御禮申上げます最早私も幸に全快いたしますが其後は今まで居りました私の此室を圖書室にするとか院長が申して居られます。どうか是等は寄附下されし本により此の病院の患者が慰めを得、又惠みに富み給ふ神を認むる事が出來る樣祈りて居ります。看護等のためには每週火曜日の城戸先生の方より一人御出で下され聖書の御講義が御座います、看護婦達は皆眞面目で且又親切で御座います、そして彼等の室の休時間はいつも潔き讃美歌の聲で此所の病院が滿されます。病院につき書き度い事はまだ〳〵澤山御座いますが少し疲れましたから之れで止めて置きます。

○神が御一緒に居て下さらなかつたら

福山　高松加那を

福山からお便り申上る時はよき音信をお聞かせ致す筈でしたのに自分の不束なため思ふ樣活動も出來ず本當に赤面の至りで御座います、生きて居ると云ふのも唯肉で丈生きて居るばかり、精神的に靈的には眠つてまるて死んて居ります。「女子青年界」は生徒の中に一人信者がありまして其生徒が手傳つてくれますので讀者も次第にふえてほんとに感謝いたして居るので御座います。又其生徒が此度卒業いたしまして神戸の傳道女學校に行く樣になりました、神戸で修業の曉はいづれ福山で働いてくれるので御座いませうから心强くも存じます。とにかく福山は神の惠一體に歡迎されず誠に宗敎に對しては冷淡で御座います。福山の傳道はなか〳〵困難であるそうで御座います、日曜學校では十一二才から十五才位まで一所に二十五六人の生徒を數へて居ります、其方はおもしろう御座いますし益々盛んになつて行く樣で御座いますから少しは望みのあるので御座います、もう三月去年の今頃は空想に耽ても居りましたし多少望も持つて居りましたけれど、この頃の自分にはほと〳〵愛想がつきて自分のあきたらなく思ふので御座います。此處に居りますと新しい空氣にもふれも刺戟もうけて呑氣で御座いますが至て變化なく進歩して行くばかりなので御座います。努力も足りないのですけれど、私などは一體周圍から刺戟されなくては中々働けない人間で御座いますからもし神樣が一緒に居つて下さらなかつたら私は家へ歸へつてしまつたかもしれませぬが上よりの御助を得て働いて居りました。

先達は嬉しう御座いました。こんど卒業すべき生徒の一人が私の信者なるを知り何卒神に導いてくれと涙を以て賴みました、それから寄宿舍生で敎會へ行くのはすこしむづかしかつたのでしたが、かゝさず敎會に行く樣になり其から後もいろ〳〵質問に來たりして敎會へ行く事の出來た事神の前に出る事の出來たことを心からよろこんで居ります、必ず勝利ある生涯をすることゝ勇ましく存じます。先達て廣島へ

御出張中の木幕様が御親切に御はがきを下さいました、うれしく拜見いたしました、御目にかゝれたら停車場まででも參らうと存じて居ります。

○與へられし境遇の中に勉强いたしたい

尾ノ道　阪本花代

待ちに待ちし「女子青年界」の誌上にて皆々樣の御樣子を伺ひ御なつかしく嬉しく存じ上げ候。當月初めよりミスガーヴィンの御手に御厄介に相成り海岸にて美しい景色を眺めながら靜かに樂しく過ごし居り候この與へられし境遇の中に出來る丈勉强いたし度しと思ひ居り候、信仰の道にも益々進み他の方々を導き度く祈り居り候、かゝる地に住むこの身は祈りと御手紙によりて人々樣を導くより他なく缺點だらけのこの身は行によりて直接近くの御方々を導く事むづかしく御恥しく候思ひがけもなく遠く山奥に住む人々にても神樣を戀ひ慕ふ御方もあり誠にゆかしく喜ばしきことにて候、誠に御多忙中恐れ入り候へども本月分の青年界一冊と青年會の手續ぎ書十枚許り御送り下され度願ひ上げ候先日のは三原に送り三人の御方御入會下されこの上勸誘下さるよし益々盛んに御入會下されて青年會を設くる時代來られ度く候。

○私も及ばずながら寄附金募集

大津　馬屋原妙子

諸先生方々は白耳義同情會の爲御活動の由新聞紙上や女子青年會誌上で承はり候塾の卒業生の方々の色々と會の爲め御つくしの事も承はり候就では私も及ばず乍當地にて寄附金募集いたしたく候間趣意書御座候はゞ何卒御送り遊ばし下され度堤稲源の兩友もいたす事と存じ候先は御願ひまで。

○私の胸を打ちました

仙臺　横澤つぎ

女子青年會の音樂會の純利益四百餘圓とは實に有難い事です、同日は當地でも雨降り御地はどうかしらと案じてゐましたが大變に盛であつたとの事さもあるべき事と思ひます、神も先生方や皆々樣の熱心をよみし給はで居られなさらぬのでせうと思ひます、青年會いよ〳〵榮え嬉しう御座います。白國婦人同情會では最早や一萬圓集金とは感謝に堪えません日本から行つた金なんか僅で、分の事は出來ぬかもしれませんが少しつゞ出したものが可憐な婦女子を救ふかと思ふと有難い事です。神を信ずる者は御金を出す時に若しも善のためのものなら「いくらとられる」と云はず「有難う」と感謝して出すといふのも偶然の事ではないと思ひます。米國は自國丈にて白國を救ふ積りであるとの事、ほんとに美しく思ひます、今白國婦人にて獨兵のため苦しめられ寄る處もなくさまよふて居る者五百人からあるとの事何とした氣の毒な事でせう、何か出來る事して上げたいと思ひます。私も當地で少しでも集金して送ります。今日生徒に敎へる本の中にある娘の子の手は大變に荒れて見られぬ程であるのを、其の友人が若しピヤノを引いたら如何に不釣合であろふと笑つたのをプラォンといふ人がいふに其人の手は組中では最も美しいものである、其手は母の手傳ひ子供の世話近所の子供の世話にて忙しい、又道にて疲れた馬や跛になつた犬などをいたわつて居るのを見た人もあるとの事を申しました、且その身が又美しいといふのもその女の子は喜んで愉快げに仕事をするからであるとの事、私の胸を打ちました、第二の女の子はこれを聞き自身を恥

しく且悲く處思ふたと申しましたら、其悲しみを善行にてしめせと申ししたなんか生徒を導くに良いつてどありました、のみならず自分が生徒よりも助けられました、凡の事喜びて致し度いと思ひます。會說に說明してありし「希望」といふ繪一つ買ふ事に决心しました、私は全く繪が下手ですから畫く事は大嫌ですけれど見るのが大好きにて良いのを見つけるとたまらずいつも買つてしまひます、通信欄にて上野とし子氏のきよみ美しき信仰羨ましく思ひました。米澤にて光と成られる事と今から悅んでゐます。吉本樣が札幌へ行つて下さるよし生徒も喜びませう、私の最も親しく思ふた四年生も今年はとう〳〵出て行きます。今日も手紙が來て感慨無量でした。今この地に特に獎勵される程の教會もなく師もなく友人もなくて居るのは直接に神に來たれとの命ならんと思ひました、いろ〳〵昨夜は考へ單に聖書を讀むといふでは駄目ですから幸クリスマスにローマ書の譯を貰ひましたのでそれで毎日研究する事にきめました、もう一つは夏の修養會にどうしても出たく思ひましたから、御心ならば願ふて居ります。餘り自分の罪々と思ふと却て罪にて己の事をのみ考へるのである己といふものを皆碎きて他人に與へてこそ始めて淸き己を見出すものと氣がつき嬉しくなりました。

○來る四月札幌を去ることに相成候

札幌　高橋みづほ

北海道の山野も春らしく相成り申候折柄、先生方には益々御淸榮御働きの事と嬉しく存じ奉り候、次に私事も不肖ながら無事學校のため又女子青年會のため働く事を許され何より感謝いたし居り候。

本月の「女子青年界」により仙臺に於ける修養會の事ども承はり皆樣の御熱心の程感服いたし候。當會は區の會にてあり乍未だ内に充實せす外にも發展せず、私共の不信仰の實悲しく存ぜられ候。先日本年度の新役員改選せられ、去る七日就任式並に般先會を催し候、區内の各教會の方々の御盡力にて約じ十名程の出席者あり實に美しき會に御座候ひし、神の惠の豐かなるにつけても己が怠りを恥ぢ候、昨年の幹事の御忠告に從ひ各方より有力なる方々を役員又委員等の御願ひいたし一部成功いたし喜ばしく存じ候、來る四月札幌と去を事に相成り候、私にとりよき後繼者の多く與へられし事は無上の喜びに御座候、此度私事神戸女學院の方に入學いたす事に定まり不日出發致す事に相成り候先日雜誌の會說「希望の光」を讀み千萬の味方を得し如く心强く又人には絕望の如く見ゆる時も神の子たる我等の望みにみつるは至當に存じ候。

○どんな苦痛もどんな困難な働でも

橫濱　井上三保

私事色々の事情にて此夏渡米致すことゝ相成りました、時々私は前途の暗い道を開いて進むは私自身が肉體に於ても精神におきましても餘り弱くて幾分かの不安を感じて來る事が御座います、もつと〳〵强い勇氣が與へられます樣にたゞ〳〵祈るより外御座いません。と信じて居ります。私の全精神をさゝげて彼の地にあります同胞にために眞の道を紹介致し度う御座います、此の心はどんな苦痛もどんな困難な働きをも辭さない事と信じて居ります。たとへ自由に直接に專らキリスト教の爲に働く器として彼の他に送らるゝのではないとは申しても、彼の地に渡りましてから女子青年會の使命を帶びて是非其のお働の幾分かを手傳はして頂き度いと切に望んで居ります。それは私自身

の信仰の土臺にもなる事では御座いますから。何卒私の心を彼地にある女子青年會の方へ御紹介下さいまして哀れによわき私を御教導下さいます様ひたすらに御願ひ申上げます。

○忘るまじき敎訓を格別に記臆致候

静岡　鹽川とめ子

昨年よりふと女子靑年會を購讀致し居り候に卷を重ぬるまゝに高き信仰にふれて自覺を明かにいたし感謝に存じ、今年の「隅の首石」の御詞身にしみ〴〵と相悟りわするまじき敎訓と格別に記憶を强くいたし候、昨年は三谷先生に當市にてはじめて御話を承り歡喜に充され候者全市に溢れ候とて申さん有様に無之候、私は三度まで承はり候總じてせよとの御話にあらでかくなしたりとの御話に聽くものは直覺の氣分になりたゞに說敎としてしらるゝものとは變り膜を隔る事なしに愛のキリストを見奉るの感らしめられ候されば私の學校に昨年以來卒業生にて同窓會の相集り候との三谷先生を口にせぬは無之候、之は私が先生の御話の一節を紹介致し候時彼等の心裡に深き印象を與へらるゝに候。雜誌中の敎訓を折を得る毎に彼等小女に相傳へ申居候。

○一番大きなと思つて居ました

横濱　井戸本小夏

先日はフエリス女學校に橫濱市内の諸靑年會の支部の會員が集りまして萬國學生の祈禱日を守りましたので私の學校からも行かれました私は級がドであるけれどゆるされましたので上級の方と參りました私は常に他の學校に行つた事がありませんので捜眞女學校が一番大きなよい學校と思つて居りましたらフエリスト女學校は大きいので驚きました、藤田貞子夫人より私共に大切なよき御話がありて其後六七人の方が熱心に祈られて閉會致しました私はいつもよい御話ばかり伺ひ誠に喜しう御座います其故何か一つでもよい事を致そうといつも朝決心を致しますが一つも出來ません、たまに出來たと思つても後よく考へて見ますとそれは人としてなすべき當然の事ばかりであります。いつも色々雜誌でよき事を敎へられ嬉しく存じます。

前にも申しました通り當校には文藝部運動部部修養の三部にわかれて居ります、昨日は放課後昨年からの各部の報告があり誠に有益で御座いました各級より各部の責任者を六人出すのです。

○會友申込（本部報告）

（普通）竹村虎　圓よしえ　筒井たか

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

竹村　虎（自大正四年三月 至同五年二月）
安孫子八重（自大正四年一月 至同年十二月）
圓　よしえ（自大正四年三月 至同五年二月）
筒井　たか（自大正四年三月 至同五年二月）
荻野　初子（自大正四年二月 至同五年一月）
井上　玉枝（自大正三年十二月 至同四年十一月）
桑原　まさ（自大正三年十二月 至同四年十一月）
大井　夫人（自大正四年一月 至同年十二月）
河井　道子（大正四年三月分）
大谷　まさ（自大正四年三月 至同五年二月）
三島　つな（自大正四年三月 至同五年二月）
宮島まさえ（大正四年四月 至同五年三月）

○雜誌「女子靑年界」代金領收

金七拾錢也

高橋　あい（自大正四年三月至同五年二月）　松井　まき（自大正四年一月至同年十二月）

安部　久惠（自大正三年八月至同四年七月）　根來　政衞（自大正四年一月至同年十二月）

淸田　民乃（自大正三年七月至同四年六月）　上野　くめ（自大正四年一月至同年十二月）

高橋　道子（自大正四年三月至同五年二月）　大山　かね（自大正四年一月至同年十二月）

金子　もと（自大正至同）　伊志田うた（自大正四年三月至同五年二月）

砂川　シテ（自大正四年三月至同五年二月）　高島まさ乃（自大正四年四月至同五年三月）

岩崎　きみ（自大正四年三月至同五年二月）　ミス、コルテス（自大正四年三月至同五年二月）

金貳拾壹錢也

鳴神　ふさ（自大正四年一月至同年三月）　松浦　止末（自大正四年一月至同年三月）

石坂　シサ（自大正四年一月至同年三月）　河野　ノブ（自大正四年一月至同年三月）

金貳圓拾壹錢也　馬屋原妙子（自大正四年一月至同年十二月一部自大正四年三月至同五年二月二部）

金拾參圓五拾錢也　宮城女學校靑年會（自大正三年六月至同四年二月二十部代及大正三年五月十五部）

金六圓〇九錢也　共立女學校（大正四年二月八十七部代）

金壹圓也　小林　純（自大正四年三月至同五年六月）

金貳圓八拾錢也　共立女學校靑年會（自大正四年一月至同年十二月四部代）

金四拾錢也　長谷雄三郎（自大正四年四月至同年九月）

金參拾五錢也　大川　きく（自大正四年一月至同年六月）

私事來る五月上旬米國加州羅府（ローサンゼルス）にて開催さるゝ合衆國女子靑年會總會に出席し、其後數ヶ月間太平洋沿岸各地に散在する同胞姉妹を訪問かた〲日本婦人の渡米狀況等一般の視察をなし、日米婦人間の友情を溫めんがため來る四月三日橫濱を出帆可致候、就ては不在中は何卒從來の通り女子靑年會を御助勢被下度御願申上候、旅行中の新しき見聞は隨時本誌に揭載可致候、一々御挨拶申上べきの處時日相迫り居り候間乍略儀爰に御暇乞申上候、諸姉の上に祝福を祈申上候　敬具

四月一日

河井道子

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍の設備有り將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）

エ、ビ、ウエスト（東京）

鈴木歌子（東京）

小此木松子（東京）

長谷川喜多子（東京）

サラ、エリス（東京）

イ、クレメント（東京）

山田千代子（橫濱）

廣岡淺子（大阪）

ケー、トリストラム（大阪）

エム、エフ、デントン（京都）

佐伯小糸（京都）

松田道子（京都）

エス、ツール（神戶）

上代淑子（岡山）

幹事

總幹事（本部）　河井道子

同（同）　エ、シー、マクドナルド

書記（同）　アール、レーガン

總幹事（東京）　エム、エル、マシウ

幹事（同）　シー、アール、ワトネ

特志幹事（同）　エム、ペーヂ

幹事（橫濱）　エム、ペーカー

事務員（本部）　河口正子

事務員（東京）　大呑久子

旅行者の友係　林ふさ　松崎滿喜

幼稚園主任保姆　大槻愛子

幼稚園助手　永野睦子

寄宿舍監（第一）　門倉ぶじ

寄宿舍監（第二）　大西絹子

宿泊所取締　ミス、ダルトン

東京市牛込區田町三丁目十二番地

日本基督教女子青年會本部

日本基督教女子青年會支部及寄宿舍其他位置

東京基督教女子青年會　東京市麹町區三番町四一
廣島女學校青年會　廣島市上流川町
同志社女學校青年會　京都市上京區今出川通
プール女學校青年會　大阪市西區川口町一二
ウヰルミナ女學校青年會　大阪市東區玉造
札幌女子青年會　札幌區北四條北星女學校內
宮城女學校青年會　仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會　宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會　橫濱市山手町一七八
共立女學校青年會　橫濱市山手町二一二
女子英學塾青年會　東京市麹町區五番町一六
女子學院青年會　東京市麹町區上二番町三三
青山女學院青年會　東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會　東京市小石川區指ケ谷町八四
神戶女學院青年會　神戶市山本通四丁目
金城女學校青年會　名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會　盛岡市內丸タピング方
德島女子青年會　德島市富田浦仲町ミスリッン方
橫濱女子青年會　橫濱市本町五一
搜眞女學校青年會　神奈川一本松
弘前女學校青年會　青森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會　東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會　信州上田丸堀

第一寄宿舍　東京市牛込區納戶町四五
第二寄宿舍　東京市小石川區水道町（安藤坂）
幼稚園　東京市小石川區金富町五二
旅行者の友事務所　東京市本鄉湯島

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokoy

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasure
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Emma R. Kaufman
Miss M. Baker General, Yokohama

本誌定價	
一部（郵共）金七錢	一ケ年分 金七拾錢
海外 金拾壹錢	金壹圓廿錢

廣告料	
一頁 金六圓	半頁 金三圓五十錢
四分ノ一 金貳圓	一行 金貳拾錢

大正四年三月廿八日印刷納本
大正四年四月一日發行

發行所　東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三秀舍

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

March, 1915

Through the interest and efforts of Miss Nobu Suzuki, a graduate of Ueno Academy of Music, and a teacher in one of the g rls' high schools in Tokyo, a concer was given in February for the benefit of the Neighborhood House work of the Tokyo Association. A good program was furnished by the kindness of friends from Yokohama and Madame Petzold. Although the day was stormy the music hall was crowded, and over four hundred yen were cleared.

The Neighborhood House is primarily a training ground for young women who live at home and have many opportunities of helping their own neighborhoods if they knew what to do and how. Many girls have contributed gifts and time to the kindergarten for ch ldren whose parents both work during the day and who would be on the street but for the kindergarten. English and Bible classes both for boys and girls, evangelistic and hygiene meetings are some of the activities which center around the house.

The first annual report of the Travelers' Aid work in Japan shows 320 women escorted to their destinations; 127 women kept in the Travelers' Aid house, 101 of whom were between the ages of 16 and 25, and only three of them in Tokyo with the consent of their parents; 59 girls sent home, and work secured for 67. A room in the new central station is to be available for the enlargement of the work, which has already become so heavy that the present budget of ¥ 1000 is not adequate. Gifts will be greatly appreciated. These should be sent to the Tokyo Association.

The Yokohama YWCA has classes in Bible study, English, etiquette, typewriting, under the supervision of Miss Baker. On some days forty girls are in the rooms for the various classes. It is evident that one of the most importa t features of the Yokohama work is to be travelers' ai for women emigrating to America, most of them knowing nothing of foreign life even in J pan. Already several women have been helped by suggestions, letters, etc. But the problem is bigger even than the work for an individual here and there. The National Committee s making plans for an attempt at the solution

新渡戸稲造博士述

人生雑感

四六判洋布製
定價八拾錢
郵稅金八錢

たちまち再版——「宗教とは何ぞや」以下廿一篇は、ことごとく是れ、博士が多年の信仰的生活と、豊かなる宗教的經驗と、加ふるに博士獨特の觀察に基き、ありとあらゆる方面より、「人生問題」に關して、先生の意見を披瀝せられたるものの撰集なり。一として修養處世の好師友たらざるはなし。されば人々、之を繙かば、身は親しく博士と膝を交へて談笑の裡に高遠なる眞理を尤も平易に、面白く、理解し、會得することを得べし。就中、婦人のためにものせられたるもの多きがゆゑに、敢て諸姉にすゝめむとはするなり。

アリス、コークラン原著
成瀬仁藏先生序
林静太先生譯

婦人の典型

寫眞版十個

□聖アウガスチンの母モニカ
□グラットストーンの妻
□ピコンスフキルド伯爵夫人
□ミルの「エゼリア」
□「救世軍の母」ブース夫人
□ラヂウムの發見者キユリ夫人
□理想鄉の著者ローパー
□大天文學者の妹ハーシェル
□詩人ウオーヅオス兄妹
□ルナンの姉ユゲニ●ド●ゲン

（装幀優美＝好評）

四六判洋布製
定價一圓
郵稅金八錢

發兌　東京京橋尾張町　警醒社書店　振替東京五五三番

女子青年界第拾貳卷第四號
大正四年三月廿八日印刷納本大正四年四月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可